

# 地方都市の中心市街地における歩行回遊行動に関する研究

秋田大学 学生会員 ○山田 進太郎  
秋田大学 正 会 員 日野 智  
秋田大学 正 会 員 木村 一裕

## 1. はじめに

近年、モータリゼーションの進行と郊外の大型小売店舗の進出により、地方都市の中心市街地は衰退傾向にある。中心市街地に活気やにぎわいを創出する要因の一つに歩行者の存在が挙げられる。秋田市においても、JR 秋田駅周辺地域における歩行者の人数調査は行われている<sup>1)</sup>。しかし、訪問場所や歩行経路は明らかにされていない。

本研究は、JR 秋田駅周辺地域を対象とし、行動調査と追跡調査から訪問者の詳細な歩行回遊行動を把握したものである。さらに、経路選択時に重要視する項目を分析することにより、歩行回遊行動の観点からよりよい中心市街地のあり方を提案することを目的としている。

## 2. JR 秋田駅周辺地域の状況

図 1 に JR 秋田駅周辺地域状況を示す。秋田西武、イトーヨーカドー、フォーラス、アルス、アルヴェ、他にも駅に隣接するトピコなどが駅前の主要な店舗である。さらに、駅からイトーヨーカドーまでをつなぐ屋根付きの歩行者用通路(ポポロード)があり、秋田西武まで屋根は続いている。また、図 1 で示している数字は駐車場を表している。その中でも、公営駐車場は駅周辺で最も利用されている駐車場の一つといえる。



図 1 JR 秋田駅前の店舗と道路環境<sup>2)</sup>

## 3. 本研究における調査の概要

本研究では歩行回遊行動を把握するため、行動調査と追跡調査を行った。行動調査は中心市街地への訪問者を対象とし、直接配布郵送回収方式とインタビュー方式で計 406 部を回収した。

追跡調査は行動調査では把握できない歩行移動経路を把握するため既存研究<sup>3)</sup>を参考に行った。調査内容は行動調査の結果を基に、移動する訪問者が多い店舗間で訪問者を追跡し、移動経路を調査した。結果、186 名分のデータが得られた。

## 4. 行動調査による歩行回遊行動分析

### (1) 訪問手段別の平均滞在時間

行動調査の結果、主な訪問目的は訪問手段に関係なく、買物の割合が半分以上占めていた。また、訪問手段別の秋田市中心市街地での平均滞在時間を図 2 に示す。自家用車の平均滞在時間が最も短い。さらに、訪問箇所数も自家用車が最も少ない。つまり、自家用車による訪問者は駐車場料金の関係から目的が済んだらすぐに帰宅する傾向にあると考えられる。

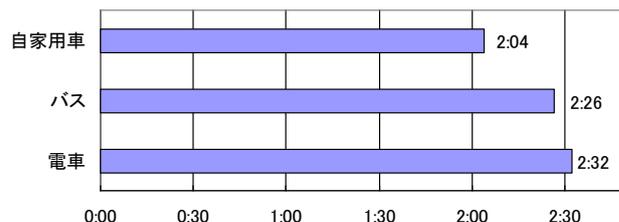


図 2 訪問手段別の平均滞在時間

### (2) 歩行回遊行動の分類

行動調査から得られたデータを基に、年代別の最も多い歩行回遊行動パターンを表 1 に示す。10~20 代ではフォーラスを訪れている被験者が非常に多くなり、30 代以上ではイトーヨーカドーを訪れる被験者が多い。また、30 代以上の被験者の多くが商品を購入している。一方、商品の購入は少なく、食事の割合が高い。

キーワード: 中心市街地活性化、歩行回遊行動、行動調査分析

連絡先: 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1 番 1 号 TEL(018)-889-2767 FAX(018)-889-2975

表 1 年代別にみる歩行回遊行動

年代	1店舗目	2店舗目	3店舗	4店舗目	滞在時間
10～20代男性	トピコ	フォーラス	アルヴェ		2～3時間
10～20代女性	イトーヨーカドー	コンビニ	その他	トピコ	2～3時間
30～40代	イトーヨーカドー	西武			1～2時間
50歳以上	西武	イトーヨーカドー			1～2時間

(2)訪問店舗と店舗間移動

年代ごとにみた訪問店舗の割合を図 3 に示す。10～20代と30代以上では訪問している店舗に差が見られる。しかし、イトーヨーカドーは年代に関わらず、訪れている被験者が多い。

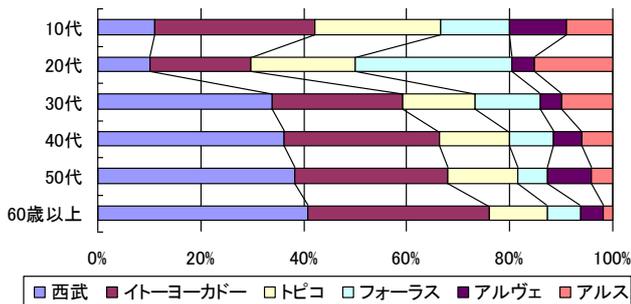


図 3 年代ごとの各主要店舗に訪れる割合

イトーヨーカドーと西武から他店舗への移動の割合を見ても、西武は約 8 割の被験者がイトーヨーカドーへと移動しているに対し、イトーヨーカドーを訪問した被験者の半数以上が西武以外の店舗へと移動している(図 4)。これは、追跡調査においても確認された。

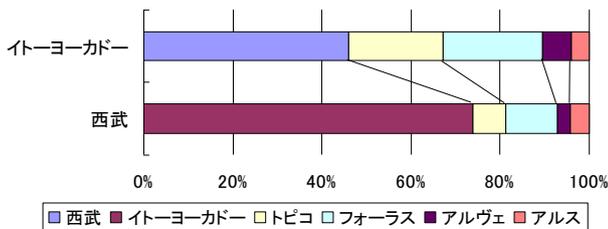


図 4 イトーヨーカドーと西武から別の店舗への移動の割合

以上の結果から、イトーヨーカドーは年代に偏りなく利用され、訪問後の行動も多様であった。そのため、秋田市の中心市街地における歩行回遊行動にとって最も重要な店舗といえる。

6.歩行時の経路選択時に対する重要度

(1)経路の選択に影響する要因の対比較

利用者が駐車場やバス停などから目的の店舗まで、または店舗から店舗までの移動において、経路選択時に重要視する項目を明らかにするため、対比較を行った。対比較した項目はより早く目的地に到着できる「移動距離」の長さ、人通りが多く、周りに

店が並んでいるなどの「人通り・にぎわい」、夏・冬の屋内環境、エスカレーター・エレベーターなどの設置による「移動のしやすさ」の3つである。

(2)対比較による重要度評価

対比較で算出した各項目の重要度を表 1 に示す。10～20代、30～40代では「移動のしやすさ」、50代以上では「移動距離」を最も重要度が高い。全体的に見ても、「人通り・にぎわい」の重要度が低く、「移動距離」と「移動のしやすさ」の重要度が高い。また、追跡調査においても最短距離で移動する利用客と、店内や屋内を通る利用客の2つに分かれた。この結果からも経路選択時の「移動距離」と「移動のしやすさ」の重要度が高いことがわかる。

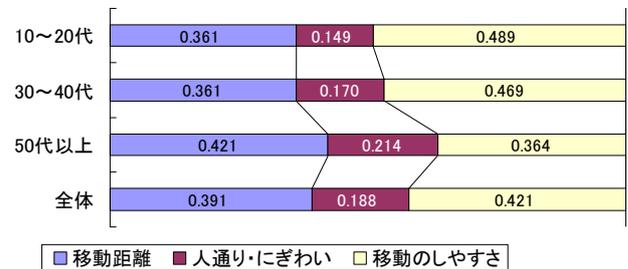


図 5 年代別の重要度

8.まとめ

本研究における行動調査・追跡調査の結果、JR 秋田駅周辺地域における歩行回遊行動を詳細に把握することができた。分析の結果、被験者の属性などによって歩行回遊行動は大きく異なること、店舗間が離れている場合は店舗間の移動が少ないことが明らかとなった。移動距離とともに移動のしやすさに対する重要度が高くなったことから、店舗間移動時の負担を軽減するような環境整備が望まれる。また、イトーヨーカドーが歩行回遊行動の中心となっていることも示された。昨今、イトーヨーカドーが撤退を検討していることが報道されているが、撤退した場合に秋田駅前に深刻な影響を与えられられる。

参考文献

- 1) 秋田市役所都市計画課:秋田市中心市街地駐車場マップ, 2009
- 2) 秋田市役所市勢活性化推進本部:秋田市中心市街地活性化計画, 2008
- 3) 蔵方博史・山川仁・高見淳史:都心部商業地区における歩行回遊行動の分析, 土木計画学研究会・講演集, Vol. 25, 講演番号 209, 2002